

知る

ハチが刺すのは、どんな時？

【警戒】

巣に数メートル以内で近寄ると、周囲を飛び回って警戒します。この時、大きな音を出したりして騒ぎ立てると、多数のハチが出てきて警戒体制に入ります。

【威嚇】

さらに近づくと、まとわりつくように周囲を飛び回り、スズメバチなどは、顎をかみ合わせて「カチカチ」と威嚇音を発します。

【攻撃】

威嚇を無視したり、巣のある枝や土中の近くを通り、巣に振動などの刺激を与えると、興奮したハチが出す「警報フェロモン」に応じ、集団で攻撃してきます。

【補足】

オオスズメバチは、餌場（樹液が出ている樹木）に近づいた場合などでも攻撃してきます。また、新女王バチが誕生するこれからの季節は、いきなり攻撃してくる場合もあるため、刺されないよう予防することが必要です。



▲ スズメバチの中で最も大型になるオオスズメバチ。（最大約5センチ）

攻撃性が非常に強く、またハチ類の中で最も強力な毒を持つ。さらに縄張り意識も強く、巣以外での刺傷にも注意を要す。

予防

刺されないためにはどうすればいいの？

【遭遇】

巣などが近くにあり、ハチが飛んできた場合は、騒いだり、手で追いつたりせず、頭を低くして静かにその場から離れましょう。また、単独で飛ぶハチの場合は静かに飛び去るのを待ちましょう。

【行動】

夏から秋にかけて虫取りやアウトドア、庭木の剪定など野外活動を行う際には、まずハチに遭遇する危険性があることを念頭に置きましょう。次に、なるべく白っぽい服装で出かけましょう。特にスズメバチは「黒色」を攻撃する性質があるので、頭を守るため、白系の帽子があると良いでしょう。

また、香水やヘアスプレーをしての野外活動も控えましょう。

対処

刺されたら、どうする？

【処置】

刺傷部に痛みと腫れが出ますので、すぐに毒液を搾り出すか吸い出し、刺傷部を水で洗った後、氷や冷水で冷やします。痛みと炎症を抑えるため、抗ヒスタミン剤、ステロイドの軟膏を塗ります。

【注意】

刺傷から数分後に身体に異常（腫脹、蕁麻疹、めまいなど）を感じた時は、直ぐに最寄りの医療機関を受診しましょう。呼吸苦や意識喪失などの場合は、一刻を争いますので救急（119番）へ連絡しましょう。

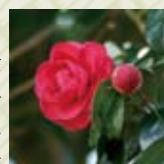
チャドクガ

（鱗翅目・ドクガ科）

秋

から冬にかけて花をつける山茶花や、冬から春に花を咲かす椿は、庭木や雑木林などによく見られます。しかし、これらの葉を好むのが、黒と橙色の縞模様（しまもよう）に全身を毛で覆われた「チャドクガの幼虫（体長1センチ程度のケムシ）」です。

6月～7月、9月～10月頃の年2回発生し、葉の裏にビッシリとつき葉を食い尽くします。植物の食害だけでなく、幼虫の背面には50万本もの微細な毒針毛があり、これに触れると数十分で触れた部分が赤くはれ上がり痒くなります。また、毒針毛は非常にうまく折れやすいため、指された部分を掻きむしると、折れた断片がさらに他の部分に刺さり、体の広範囲に発疹（はっしん）が広がり、激しい痒みが2～3週間も続きます。さらに、スズメバチ同様、アレルギー体質の方の場合、刺された回数が増すごとに重症化し、命を落とす危険もあります。虫取りなどで何気なく藪（やぶ）に入って触れたり、子どもには注意が必要です。これらの樹木には近づかないように教えましょう。



▲ チャドクガの幼虫が、サザンカの葉を食害する、身の毛立つような光景と、ツバキの花（左上）



刺された時の対処法

【処置】

刺された部分を絶対に掻いたり、擦ったりしないでください。まずは、セロテープなどの粘着性のもので皮膚に付着した毒針毛を取り除きます。

その後、石けんをつけて勢いよく洗い流します。あとは、ハチ刺されの時と同様の対処を行ってください。ひどい場合には、皮膚科など医師の治療を受けましょう。